

P02 Message from

村尾 信尚

小谷 真生子

P04 世界とつながる  
日本の中小企業

P06 JICA × 中小企業の  
海外展開支援

P08 中小企業の実践例



# ODAの今

## 中小企業の海外展開支援

大阪府 ▶ ウガンダ

## サラヤ株式会社

### 健康を守る消毒剤の普及を目指す

戦後の混乱の中、日本でまん延していた赤痢やコレラなどの感染症。その予防のために石けんを使った手洗いを広めようと、1952年にサラヤ株式会社が開発したのが日本初の薬用石けん液だった。

それから60年ほどが経った今、同社が日本での経験を携えて手洗いを普及させようと奮闘しているのがウガンダ。下痢症や肺炎など手洗いで防げる病気がまん延し、5歳未満で命を落とす子どもは1,000人中115人に上っていた。

そこで同社は、院内感染が広がっていた現地の病院で、水を使わずに手洗いができるアルコール手指消毒剤を使ってもらうことに。ベッド脇や廊下に設置し、青年海外協力隊員とも連携しながら手洗いの効果や製品の使い方などを医療関係者に説明。患者に接する前後などで手洗いを徹底した結果、院内感染は劇的に減ってきた。また、製品の価格を抑え、また地元の人々の雇用を生み出すため、現地での製造を開始した。将来的には、ウガンダの近隣国へも販売する予定だ。



人の動線に合わせてアルコール手指消毒剤を設置



アフリカの感染症予防を協議する会議にブースを出展

### JICA職員の声

元JICA北陸 業務課 課長  
(現JICAボツワナ支所)

### 星野 明彦

2015年の北陸新幹線開通により経済の活性化が期待される北陸は、古くから繊維織物の産地として栄え、建設機械や電子部品などの製造業が盛んな地域です。最近は特に海外への事業展開を狙う企業も増えており、JICA北陸としても開発途上国での活動の知見を生かして後押ししたいと考えています。まずは企業の方々と直接顔を合わせて話をし、海外進出の理由や現地で直面し得る課題をきちんと理解し、必要な情報を的確に提供できるよう努めています。自動車のリサイクルや、精米機の製造などの技術は、途上国の課題解決に貢献できると確信しています。地元企業の技術とやる気が最大限に活かされるよう、これからもパートナーシップを強化していきたいと考えています。



京都府 ▶ パラグアイ

## 株式会社わだまんサイエンス

### おいしいゴマ作りの技術を伝授

日本人の食卓に欠かせないゴマの味を決めるのは焙煎作業。株式会社わだまんサイエンスは、生のゴマをじっくり煎ることで香りやうまみを引き出す焙煎機を開発した。ポイントは鉄板ではなく石釜を使っていること。同社の製品を使って焙煎したゴマは、香ばしくてコクがあると評判だ。

そんなゴマの生産地の一つがパラグアイ。小規模農家を中心に栽培され、これま

では生のまま輸出されることが多かった。パラグアイ国民の多くは、ゴマが食べ物だという認識すら持っていなかったほどだ。

そこで同社は、現地の農家に生のゴマを焙煎する技術を伝えている。ゴマに製品として付加価値を付けられれば、国内外への出荷が増えて生計向上にもつながるはずだからだ。焙煎されたゴマを初めて食べた人々も「おいしい!」と驚いた様子だ。2015年には同社の焙煎機を導入した工場を設立し、本格的に現地生産を始める予定。「ゴマで世界平和を!」をモットーに、ゴマ作りに込められた愛情を届ける懸け橋になりたい」と深堀勝謙社長は意気込んでいる。

ゴマ農家と栽培状況について議論。彼らが栽培、焙煎したゴマは日本へも出荷される予定だ



地元の農協と協力し、焙煎したゴマの出荷拡大を目指す